|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 打　合　せ　記　録　簿 | | | | | | | | | | | |
| 業務名称 | 令和６年度環境影響評価技術手法調査業務 | | | | | | | | | | |
| 発注者側 | 総括調査員 | 主任調査員 | 調査員 | 受注者側 | | 管理技術者 | | 主任担当  技術者 | | 担当技術者 | |
| 印 | 印 | 印 | 印 | | 印 | | 印 | |
|
| 打合せ者 | 発注者側 | 環境省:鈴木(課長補佐)  曾田(課長補佐)  　　　 高木(審査官)  　　　 河合(審査官) | | 打　ち　合　わ　せ　日　時　・　場　所 | | | | | | | |
| 令和7年1月20日(月)9:00～10:00  ＷＥＢ会議 | | | | | | | |
| 受注者側  （プレック研究所） | 辻阪（管理技術者）  茂木（担当技術者）  家倉（担当技術者）  山田（担当技術者）  山口（担当技術者） | | 打　ち　合　わ　せ　方　式 | | | | | | | |
| □直接 | ■WEB | | □ＴＥＬ | | □FAX | | □メール |
| 打 合 せ 内 容 | | | | | | | | | | | |
| ■打合せ資料  ・（受注者から）累積的影響評価のガイドライン等整理にあたっての着眼点について  ・（　　〃　　）令和6年度 環境影響評価技術⼿法調査業務 収集文献⼀覧  ・（　　〃　　）令和6年度 環境影響評価技術⼿法調査業務 訳語⼀覧  ・ヒアリング対象者⼀覧  ■打合せ記録  １．累積的影響評価のガイドライン等整理にあたっての着眼点について  ・プレック研究所より、累積的影響評価のガイドライン等整理に関する着眼点の説明を行った。  ・（環境省）2018年以降の論文の傾向を知りたい。  →（プレック）この文献以降、関連論文を広くレビューしているものは見つけることはできなかった。ただし、最近は累積的影響についてEIAの一部ではなく、SEAや広域土地利用計画の中で扱っていこうという方向が見られる。  ２．収集文献⼀覧及び個票の作成状況について  ・プレック研究所より、収集文献⼀覧について説明し、個票の作成状況について米国のガイドラインを例示して説明を行った。  ・（環境省）文献一覧で黄色に着色された文献以外も個票を作成するのか。  →（プレック）内容をざっと見て判断するが、基本的にすべて作成していこうと考えている。  ・（環境省）誰がどのようにガイドライン使って、累積的影響評価をしているかを明記してほしい。また、各国の制度の比較表もあるとよい。  　→（プレック）現状で「ガイドラインの対象」という項目を設けているが、ここを充実して対象者と対象事業を明記するようにしたい。  　　また、個票に示している項目ごと（さらに詳細項目に着目する可能性もあり）に、各ガイドライン又は国別の比較表も作る予定である。  ・（環境省）ガイドラインは、現在すべて使われているものと考えてよいか。  　→（プレック）一部には使われていない可能性のあるものもある。例えばカナダでは最近EIAに係る法改正が行われ、ガイドラインについても現在「改定中」とHPに記載されている。  →（環境省）分かる範囲で使われていないガイドラインは教えてほしい。  →（プレック）承知した。特記事項などで書くようにする。    ・（環境省）各ガイドラインでは、事業種の影響項目ごとに「閾値」は設定されているか。諸外国のものを整理して、テクニカルな視点を日本のアセス審査に取り入れられるようにしたい。次年度以降の仕様を考える上で参考にしたい。  　→（プレック）ガイドラインは、考え方を示しているものが多い。EUの地中海のものには、テクニカルな事項が書かれている可能性がある。なお、テクニカルな事項はどちらかというと事例により整理する可能性が高い。  　→（プレック）日本のように、マニュアルで「閾値」などのテクニカルな数値を決めている例はあまりないようである。一般的に、事業者が影響のネットワークに着目して、指標と閾値を考えるなど、個別の事業ごとに手法が考えられている。  　→（環境省）日本のアセス制度に落とし込めるかの検討材料を集めるところから始めていきたいので、まずは事例を集めてほしい。  　→（プレック）承知した。技術的な面も意識して集めたい。  ・（環境省）累積的影響の責任の考え方について、日本はある一定の基準に沿って審査をすることが重要視されているが、米国ではもう少し事業者ごとの自由度が高いのかと思った。国ごとの特殊性や特異性など整理することはできないか。  　→（プレック）アメリカやカナダでは、国よりも州の考え方に左右されていると見受けられる。  　→（環境省）個票とは別に、報告書には国ごとの考え方を整理できるとわかりやすい。  　　→（プレック）承知した。  ３．訳語一覧について  ・プレック研究所より、英文を翻訳する際の訳語一覧を共有し、訳語の確認を行った。  →（環境省）提案の訳語で問題ない。前後の文脈からこのとおり訳せない時もあると思うので、留意してほしい。  　→（プレック）個票については、文脈から適切かどうかを判断する。ただし、全文訳はあくまで参考として位置づけていただきたい。  →（環境省）承知した。可能な範囲で良いので、全文訳についても精査いただけるとありがたい。  ４．ヒアリングについて  ・「①累積的影響の概念や考え方」のヒアリングは、村山先生を第一候補とし、日程調整を行う。  「②我が国における累積的影響の実態や取組の現状」は、風力以外について後日検討する。  「③累積的影響の評価に必要な広域の空間分析や閾値等に関連する事項」については、生態系関係は難しい部分があると思われるため、技術論がある程度確立している温排水や大気汚染関係からもヒアリング対象を選べないか。  →（プレック）③については、分野的に面識のある先生ではないため、環境省よりご紹介いただけるか。  →（環境省）省内で確認し、後ほど回答する。なお、高度な予測手法だと国内ですぐに適用することが難しいため、実際に使えそうな定量的な手法についてヒアリングできるとよい。  →（プレック）そうなると総量規制について知見がある先生が良いかもしれない。  →　環境省、プレックで引き続き対象者を検討することとなった。  ５．次回打合せについて  ・次回ヒアリングは、2月5日（水）11：00～とする。進捗とヒアリング準備状況を報告する。  以上 | | | | | | | | | | | |